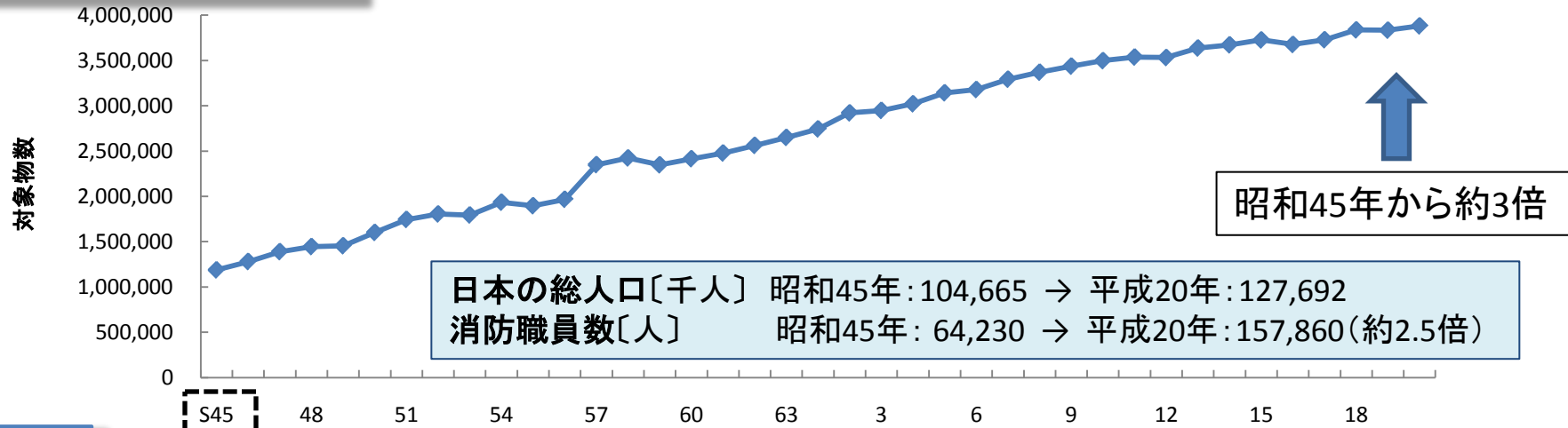


建物火災をめぐる状況の変化

資料3-3①

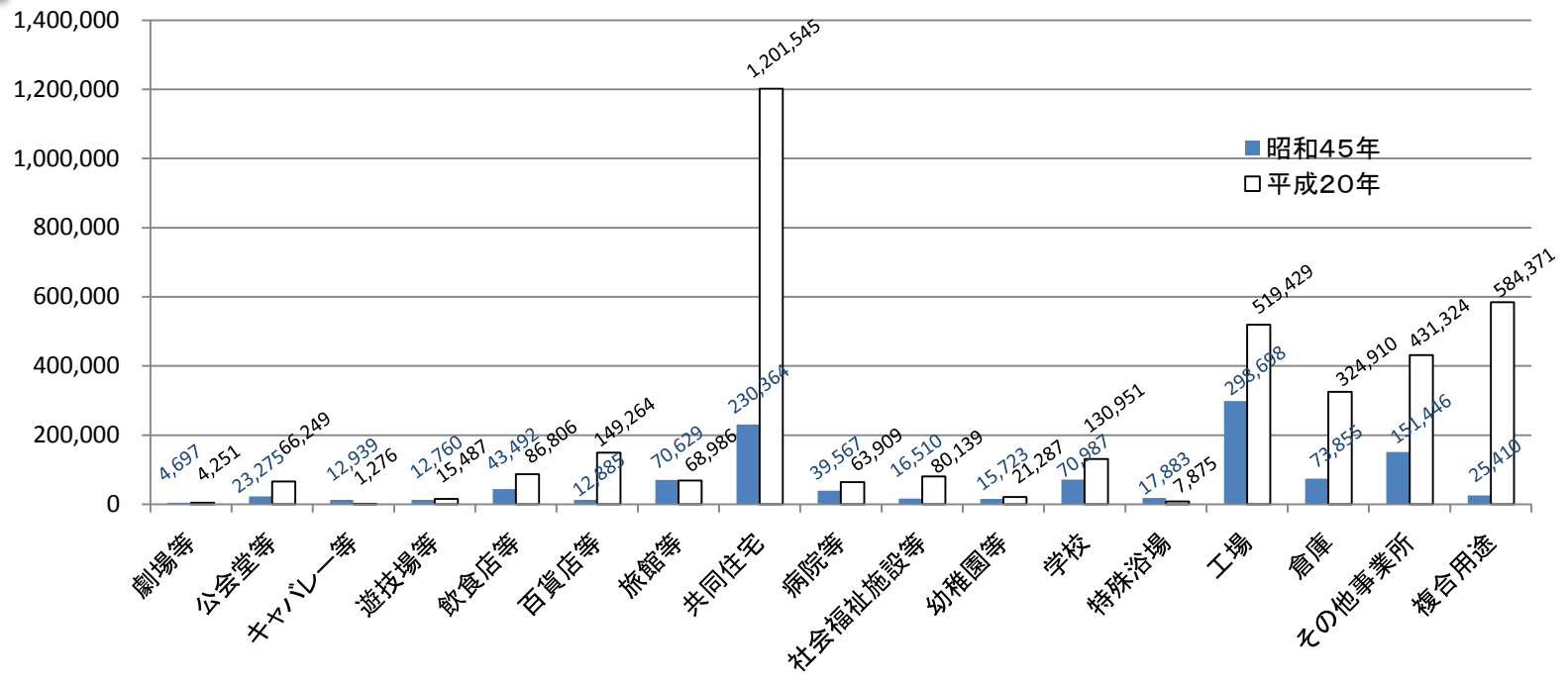
防火対象物数の推移

(150㎡以上、基準日：各年度末)

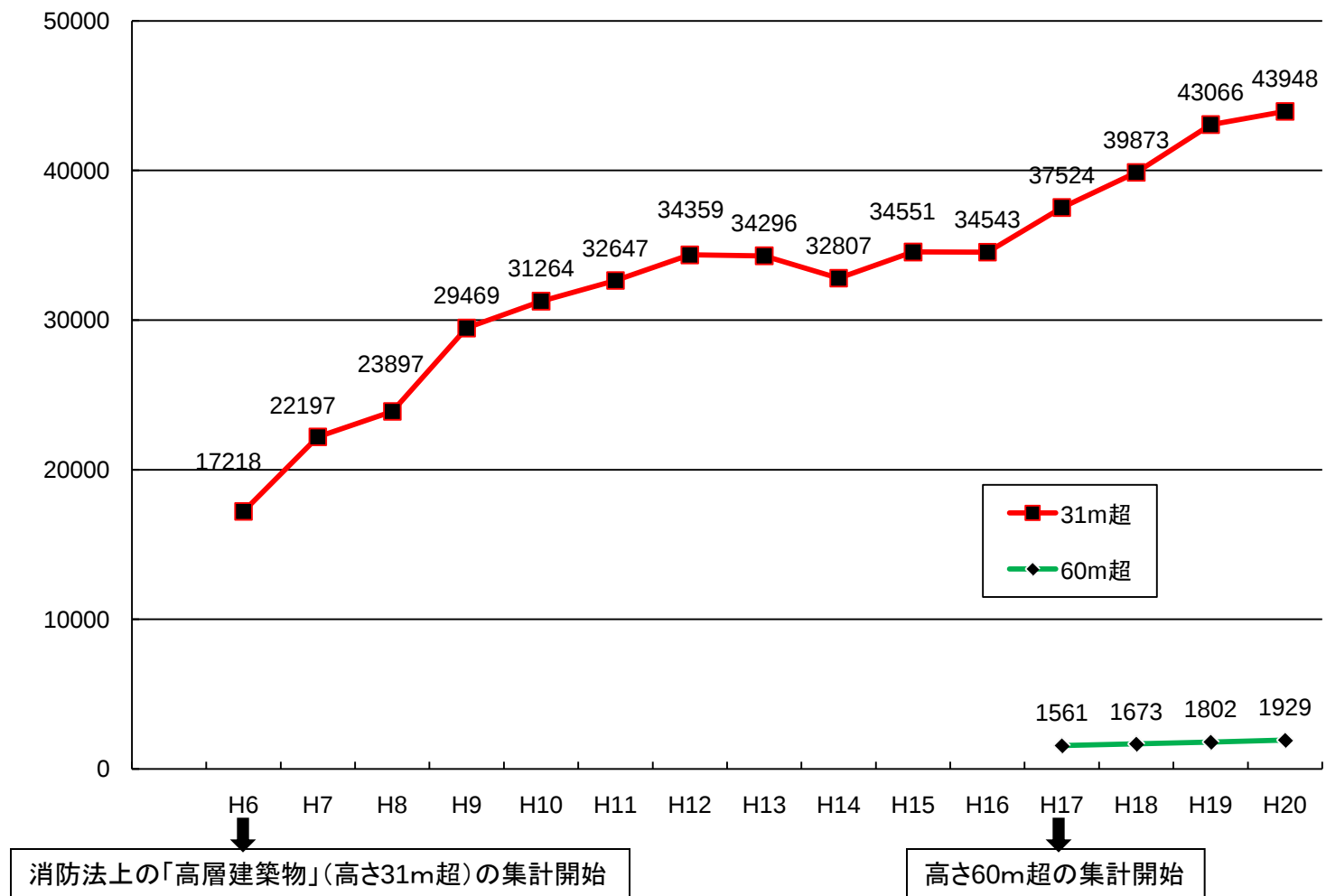


用途別

→ 「消防白書」において、「防火対象物」が掲載されている中で最も古い昭和45年度を起点とした



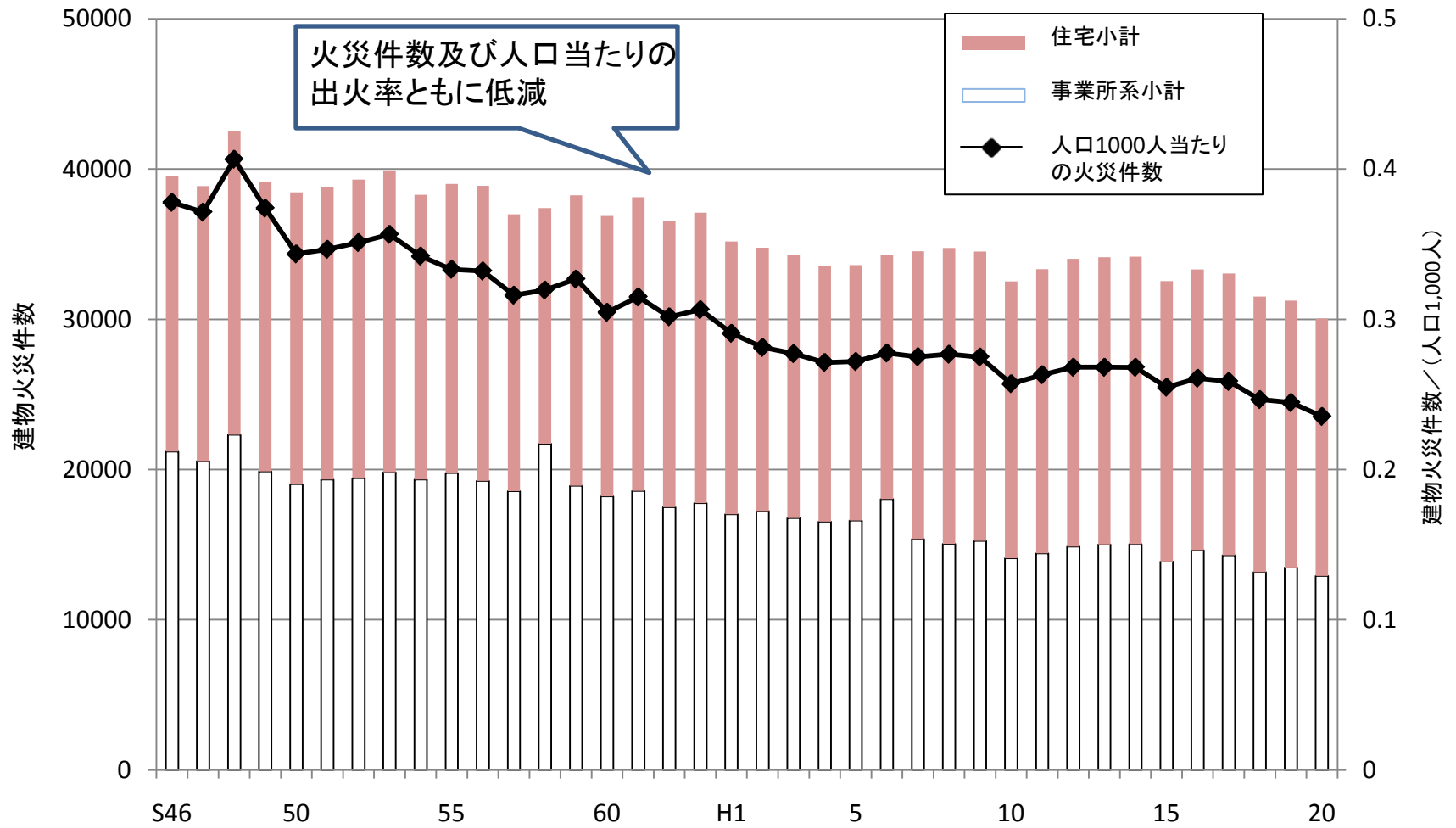
高層建築物数(高さ31m超及び60m超)の推移



- 高層建築物は平成6年と比較して2.5倍に
→ うち高さ60m超のものも年々増加

建物火災の推移

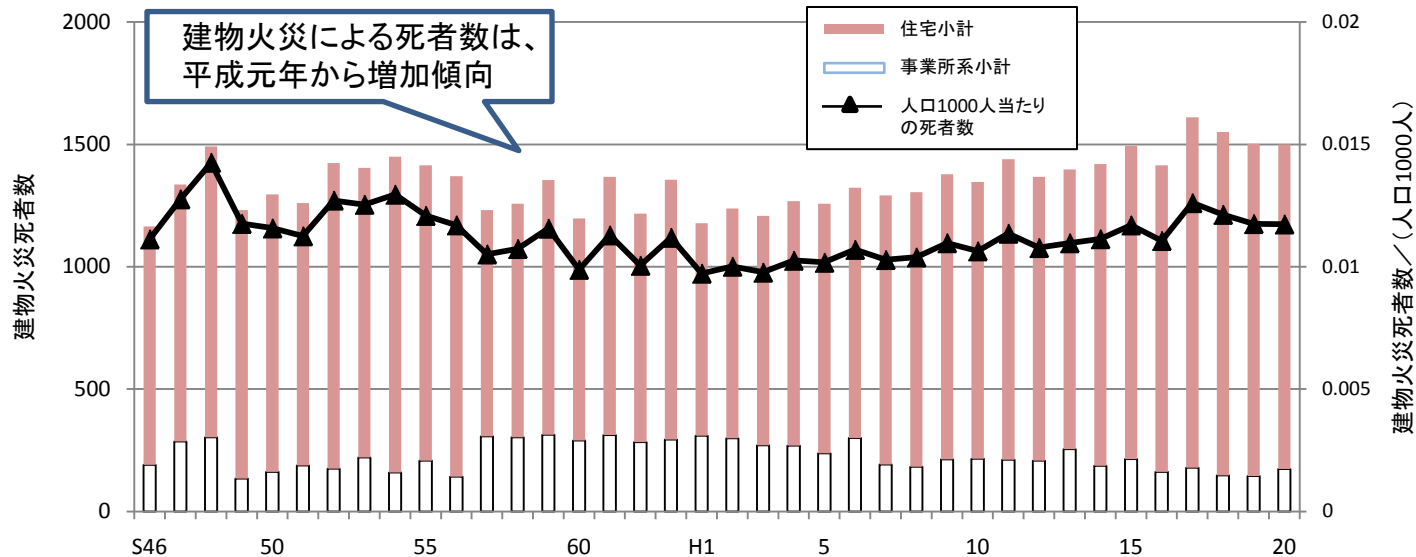
○建物火災件数



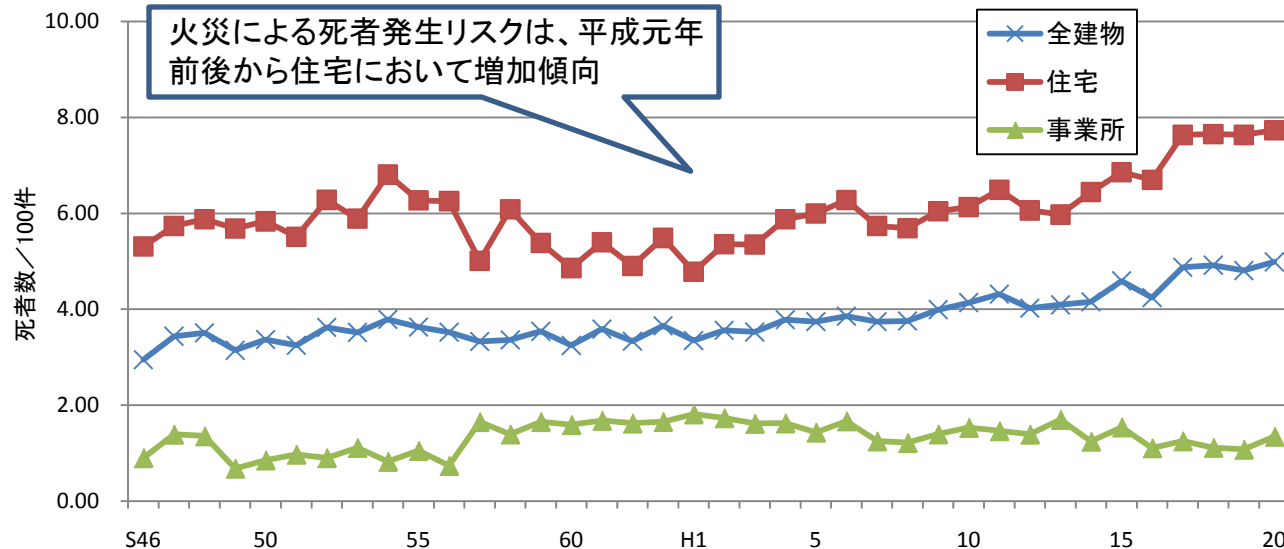
建物火災の推移

○建物火災死者数

※死者数は、放火自殺者等を含む。



○建物火災100件当りの死者数

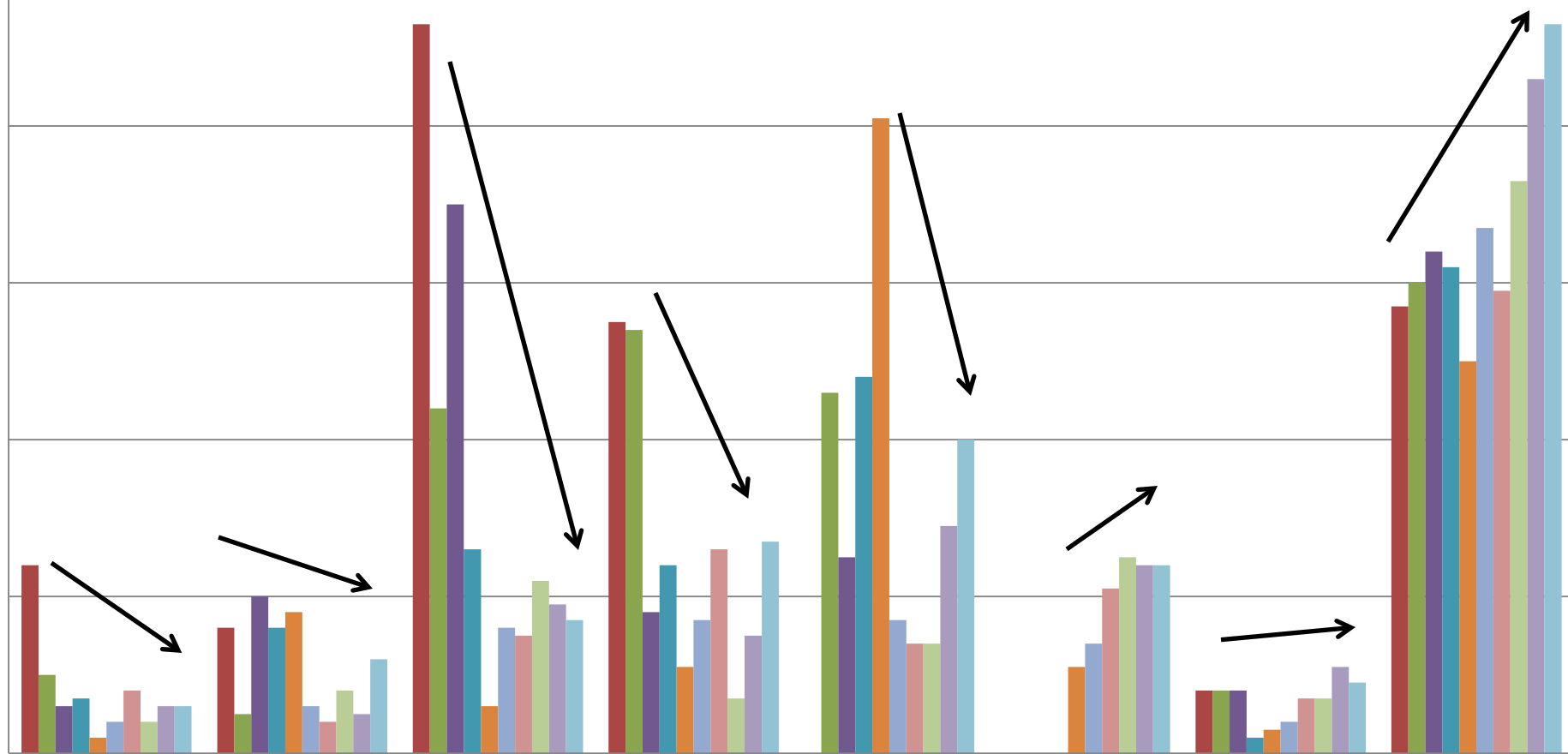


建物火災の状況

用途別火災100件当たり死者数の推移(消防白書より)

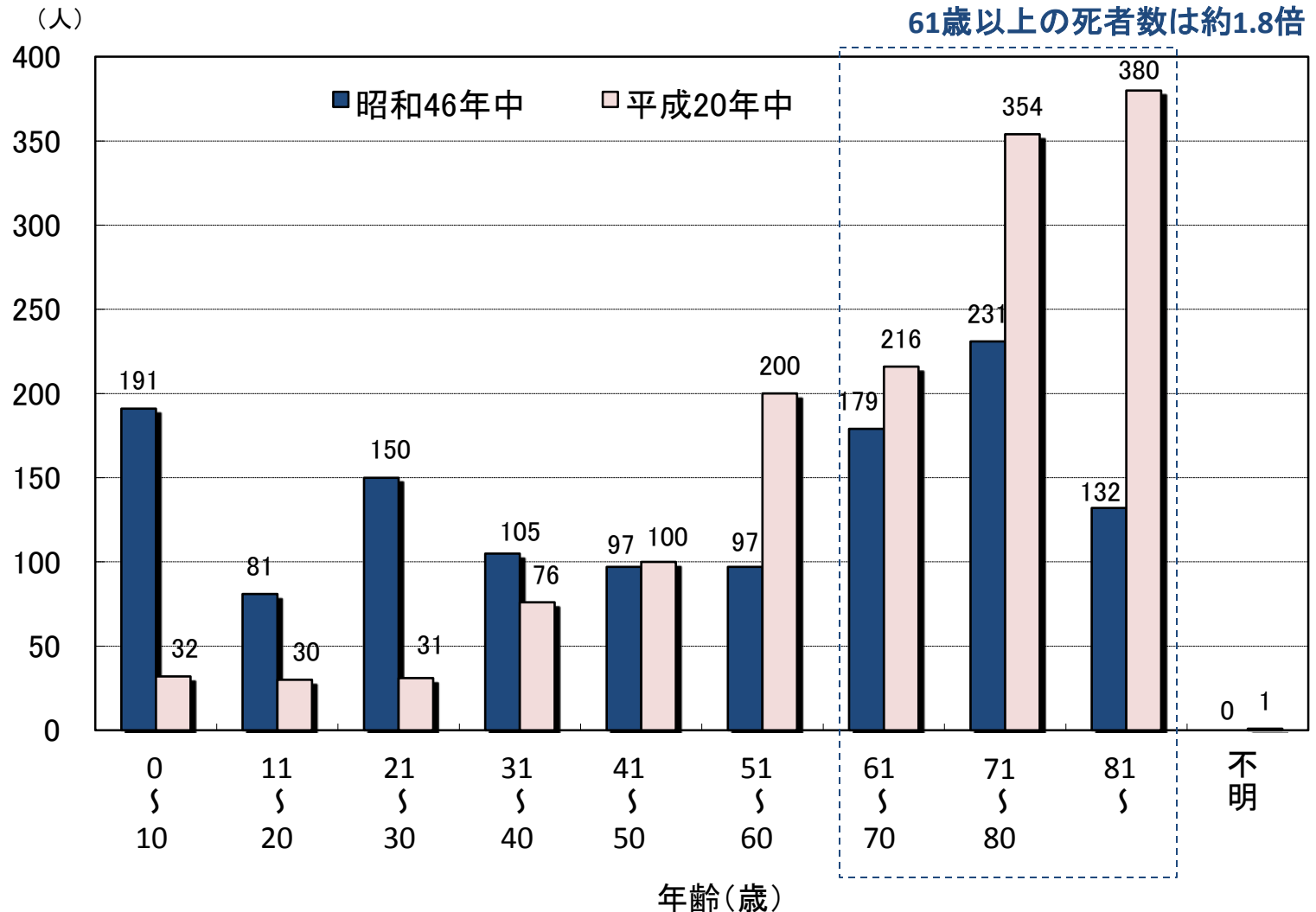
昭和40年代半ばに比べ、多くの用途で死者発生率は改善している一方で、「複合用途」「一般住宅」は右肩上がり。

→ 雑居ビル、住宅防火対策が今日的課題



年齢別死者数の推移

火災による年齢階層別死者発生状況(放火自殺者等を除く。)

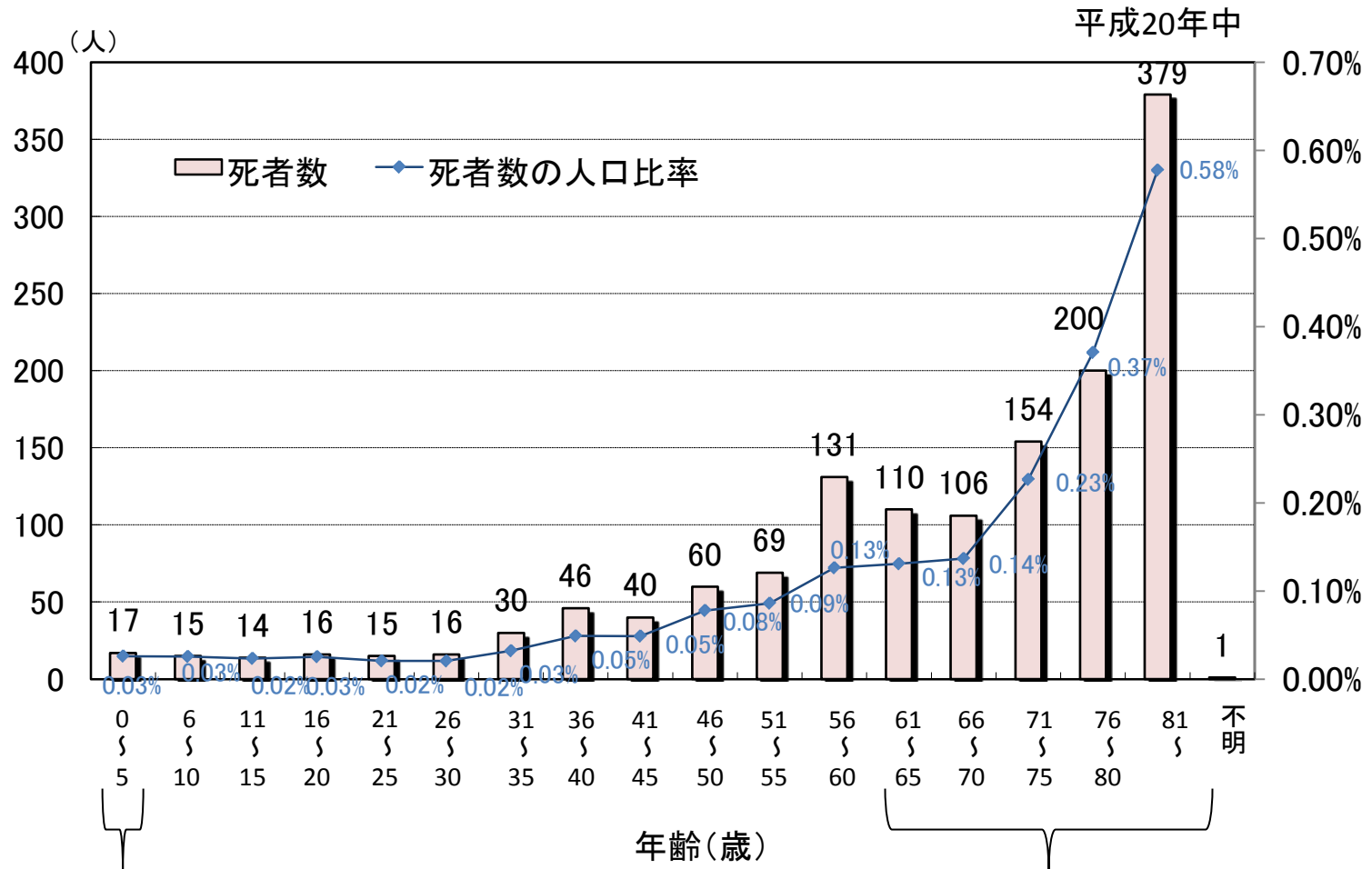


昭和46年当時は「乳幼児」※と「高齢者」の被害が多かったが、その後の高齢化等に伴い、平成20年においては「高齢者」の被害が主(より年齢層の高い世代で被害大の傾向)

※ 5歳以下の死者数は昭和46年:138人、平成20年:17人。

年齢別死者数の推移

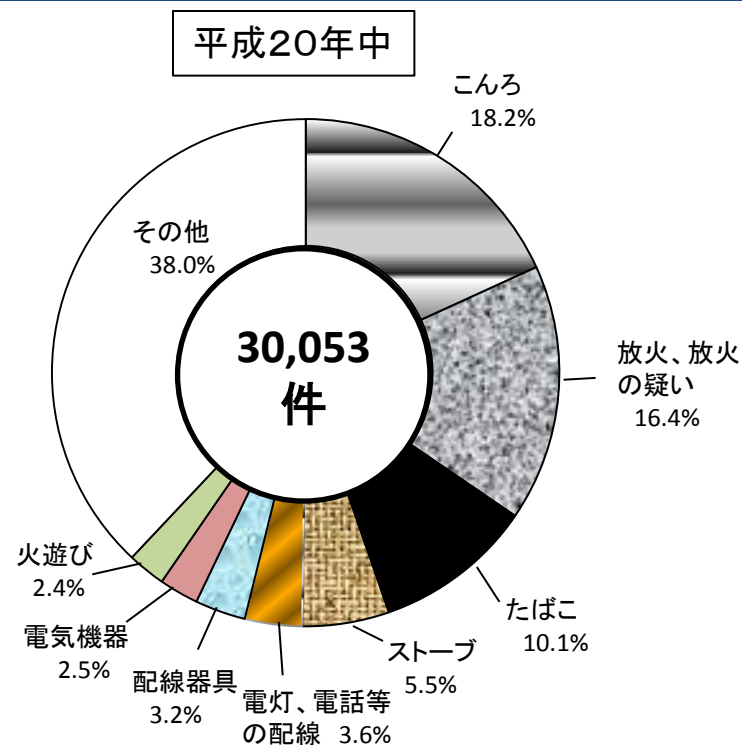
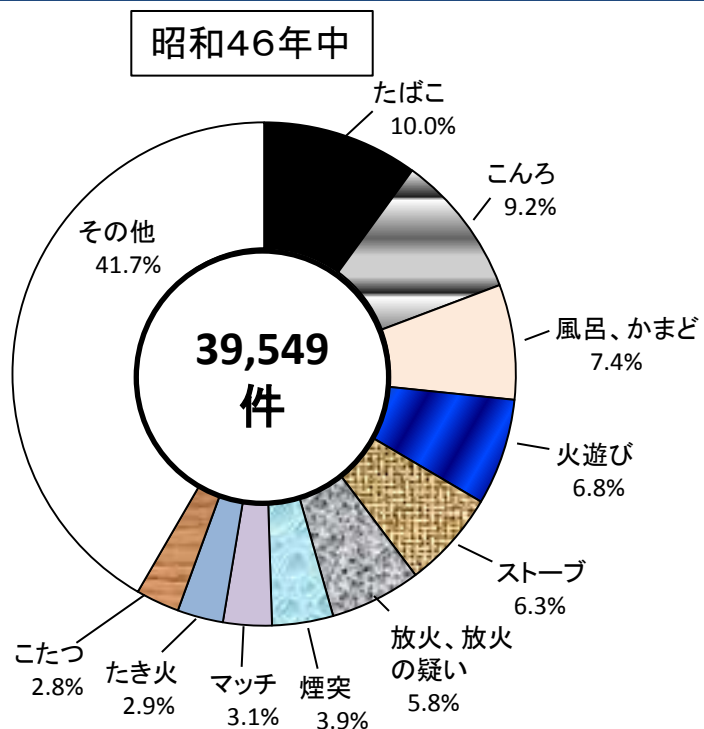
火災による年齢階層別死者発生状況(放火自殺者等を除く。)



5歳以下の乳幼児死者数
17人(1.2%)

65歳以上の高齢者死者数
859人(60.5%)

建物火災に係る出火原因の推移



	昭和46年中	平成20年中
1位	たばこ	こんろ
2位	こんろ	放火、放火の疑い
3位	風呂、かまど	たばこ
4位	火あそび	ストーブ
5位	ストーブ	電灯・電話等の配線
6位	放火、放火の疑い	配線器具

→ 失火の中で、「こんろ」、「たばこ」等は従来から多数を占めている状況
一方、「放火、放火の疑い」の割合が、近年増加

防火管理制度の効果

○平成11～20年の火災統計から作成

			死者数	全件数
火災100件あたりの死者数	防火管理者選任	1.8人	970人	54,722件
	防火管理者選任していない	2.3人	305人	13,183件

1.3倍

			延焼件数	全件数
延焼率	防火管理者選任	3.1%	1,721件	54,722件
	防火管理者選任していない	6.0%	787件	13,183件

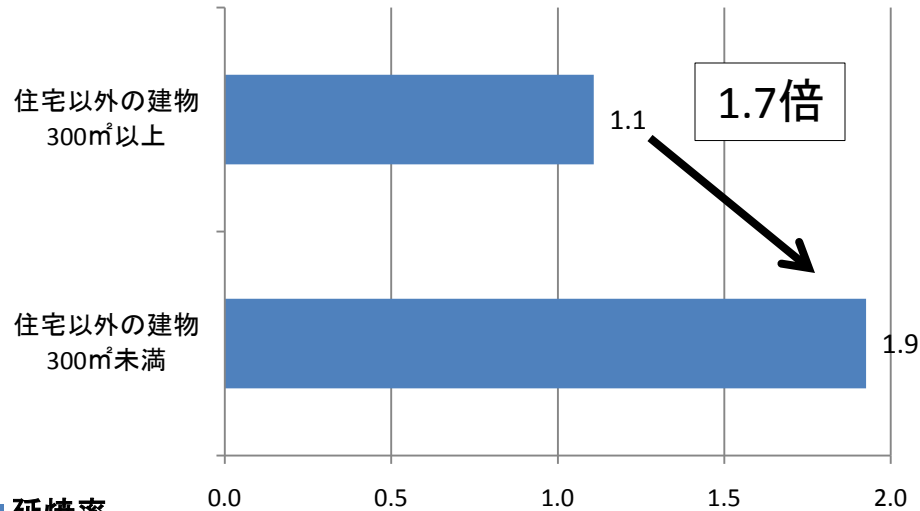
2.0倍

建物規模による火災被害の比較

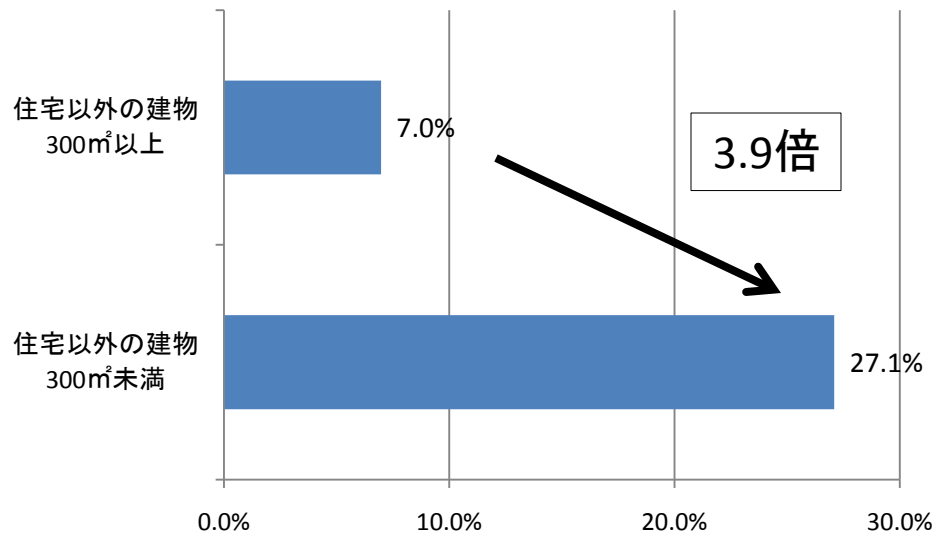
※1 平成11～20年の火災統計から作成

※2 「延焼」は他棟への延焼で、区画延焼は含まない。

■ 火災100件あたりの死者数



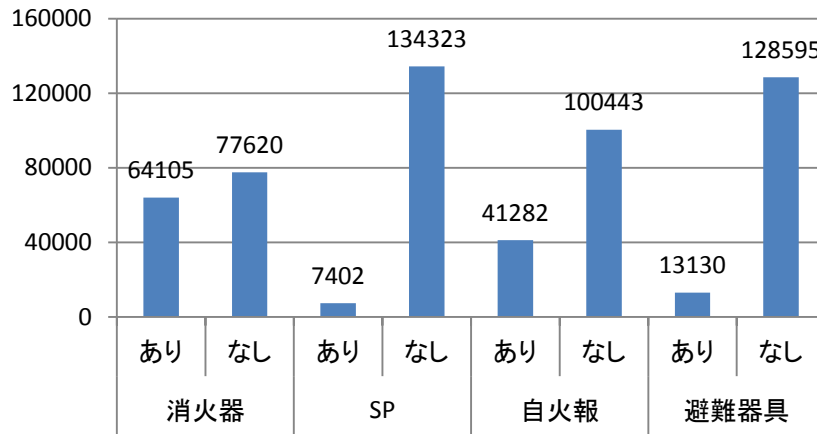
■ 延焼率



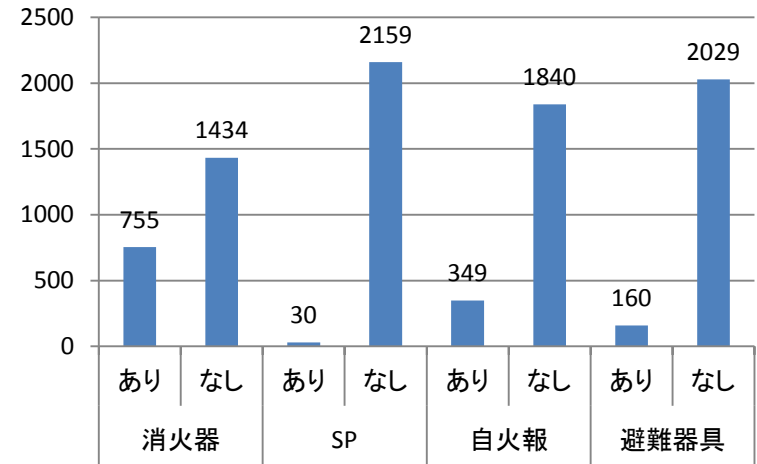
消防用設備等の有無による火災被害の比較

※ 平成11～20年の火災統計から作成(住宅以外)

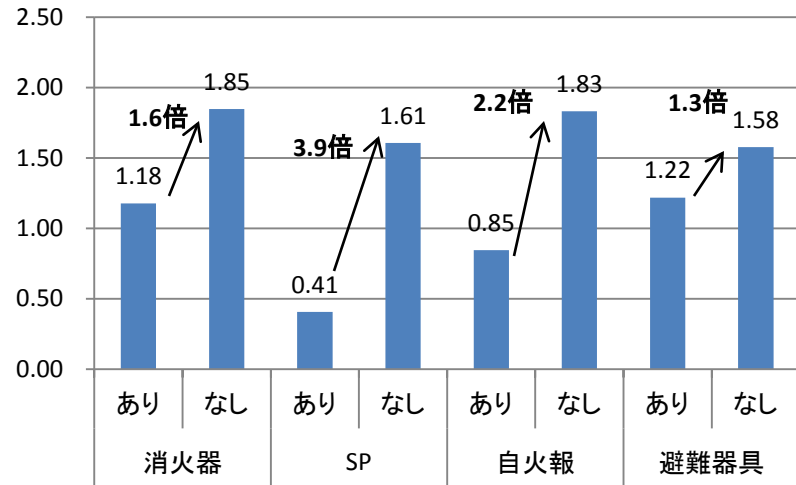
■ 火災件数



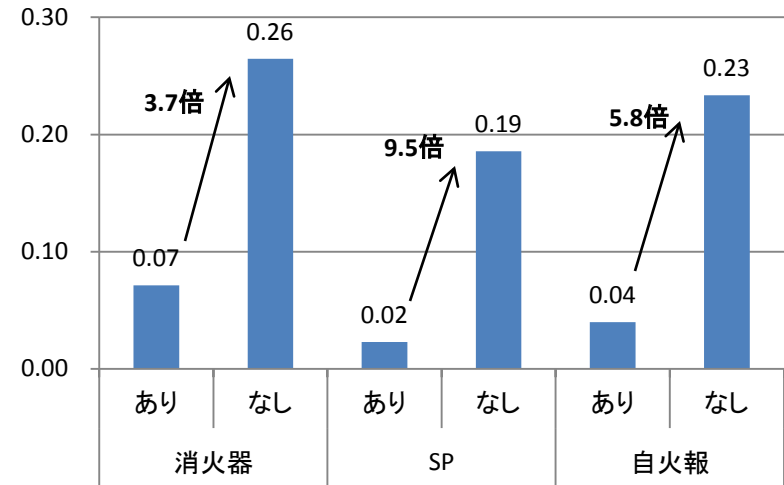
■ 死者数



■ 火災100件あたり死者数



■ 延焼率



○火災100件当たりの死者数、延焼率は設備設置対象物の方が低い。